

2016.8.30

全重協近畿ブロック
8月例会オープンイベント
パネルディスカッション



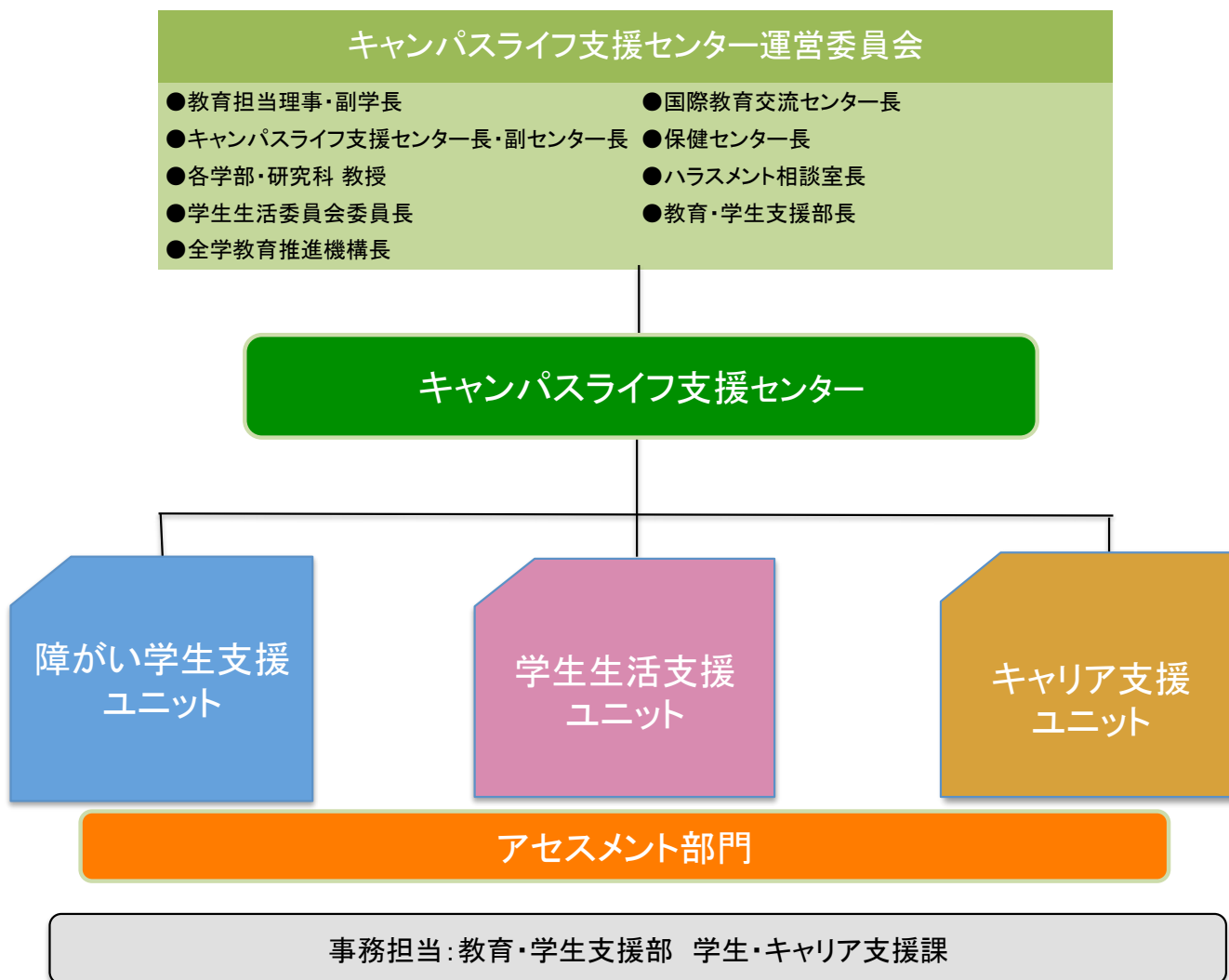
大阪大学における 障害学生への 就労支援の取り組み



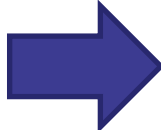
OSAKA UNIVERSITY
Live Locally, Grow Globally

大阪大学キャンパスライフ支援センター
望月 直人

支援体制

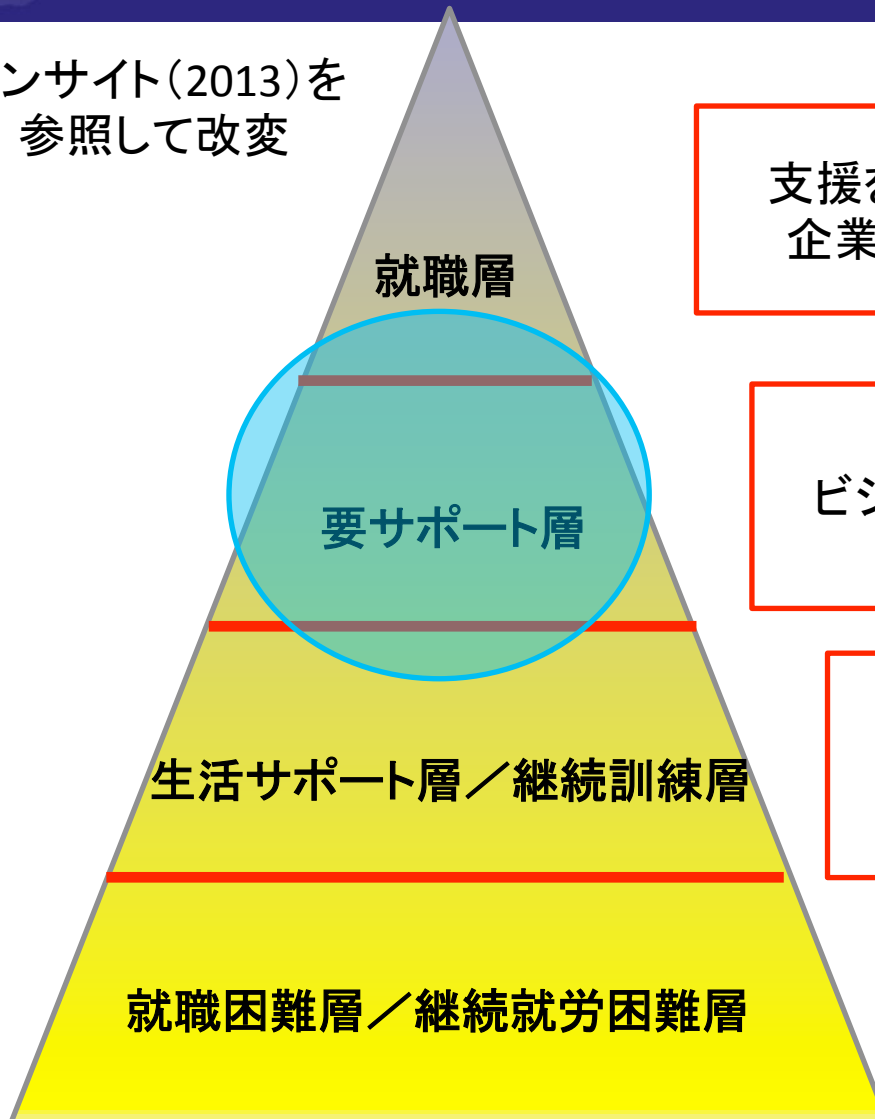


本学における障害学生の就労支援

- 身体障害学生については、障がい学生支援ユニットで支援を行うことは少ない。
 - 絶対数が少ないこと
 - 情報提供のみで就職が可能
 - 大学院への進学が多い
-  発達障がい学生、精神障がい学生が対象となることがほとんど

就労支援の対象となる学生層

インサイト(2013)を
参照して改変



支援をあまり必要としなくても就職が可能
企業とのマッチング・必要なスキル訓練

支援があれば就職可能性が高まる
ビジネスマナー講座, 自己理解プログラム
アフターフォロー

支援があっても卒業してすぐの就職は困難
卒業後, 地域のリソースで継続支援が必要
福祉的就労・就労支援機関

支援につながりにくい。就労支援機関の支援
があっても, 就職困難な層。福祉的就労は可
能だが, 継続就労が困難な層。

就職活動時における 発達障害・精神障害学生のニーズ

- 就活の始め方、進め方がわからない
（同級生、先輩との関係が希薄で、情報入手が困難）
- 「働く」のイメージが描けない
- 自分の苦手なことはたくさんあるが、得意なことがみつからない（何を自己PRとすればよいのかわからない）
- どのような仕事に就きたいのか、あるいは向いているのかわからない
- 就きたい仕事と向いている仕事に乖離がある
- 何度受けても面接がうまくいかず、その理由がわからない
- 卒業論文、修士論文作成と同時並行で就職活動ができない
→進路未定のまま卒業することになる

本学の取り組み

「働く」ということの イメージを持つ

- ・障害学生のためのキャリア
ガイダンス
- ・OB・OGや各界で活躍する方
によるセミナー

「働く」を体験する

- ・インターンシップ
プログラム
- ・アルバイト

就職活動の支援

- ・情報提供
- ・履歴書・ES対策
- ・面接対策

自己理解 ・ ストレスマネジメント

- ・グループワークの実施
- ・発達障害学生の当事者グループ活動
- ・就労支援機関と連携した就労支援プログラムの
実践

(学内)
キャリア支援
ユニット担当者

(学外)
ハローワーク等との
連携

【低年次からの就労支援プログラムの構築】

障害非開示の場合（一般学生と同じ）

学内外でのアルバイト

一般学生参加のインターンシッププログラム

障害開示の場合

学内

インターンシップ プログラム

- ・障がい学生支援ユニット
- ・学内他施設

学外

インターンシップ プログラム

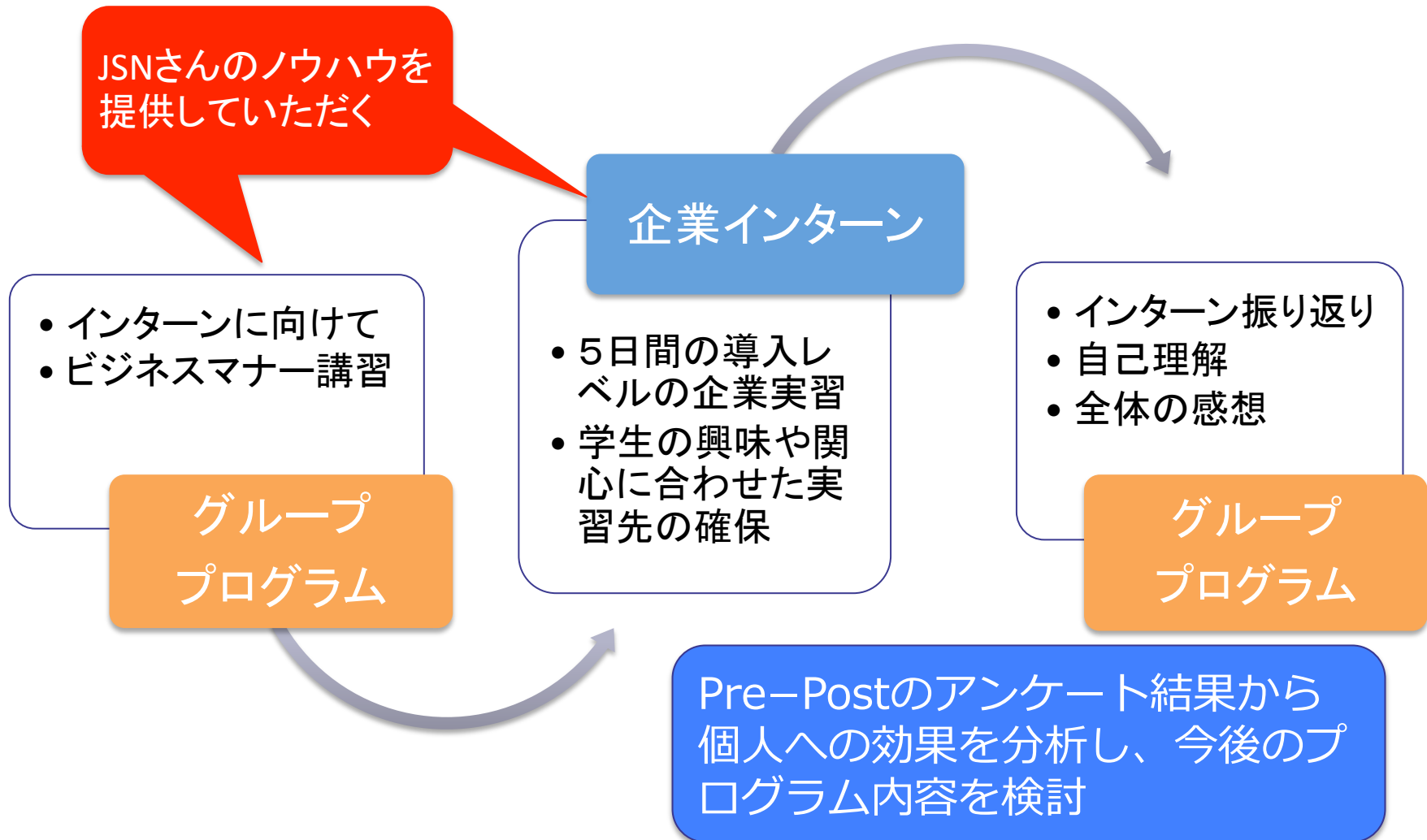
- ・協力企業
- ・学外他機関実施

学内アルバイト

- ・障がい学生支援ユニット
- ・学内他施設
- ・大学生協

外部就労支援
機関との連携

JSN地域・企業連携事業部 との連携した取り組み（試行的研究）



グループ・プログラム

	テーマ
ガイダンス	<ul style="list-style-type: none">・プログラムの内容紹介・スタッフ紹介・学生自己紹介
グループワーク①	<ul style="list-style-type: none">・「働くとは？」・「自分を知る」
グループワーク②	<ul style="list-style-type: none">・「実習目標の確認」・「実習オリエンテーション」・「ビジネスマナー」
企業実習	
グループワーク③	<ul style="list-style-type: none">・「実習の振り返り」
グループワーク④	<ul style="list-style-type: none">・「クローズ就労・オープン就労」
グループワーク⑤	<ul style="list-style-type: none">・「自分を知る パート2」
特別セミナー	<ul style="list-style-type: none">・「就職活動に備えて準備すべきこと社会に出るために必要なこと」



プログラム参加学生の感想

- プログラムを通して、睡眠のバランスが良くなったり、生活に対して不安がなくなったりする学生もいた。
 - 自分自身の得意・不得意な部分を踏まえて、自分にあった職業を考えることができるようになった。
 - 働くことに不安があったが自信がついた。
 - 集中してひとつのことに取り組むことは良い経験になった。
- ★就労支援機関の適切な企業選択や、実習中の細かな配慮によるところが大きい

学生の視点から見た 企業インターンシップのメリット

- 働くことの不安が小さくなる
 - 働くことへのイメージができる
- 自分がどういう仕事に向いているかの気づきにつながる
 - 障害特性の自己認知とも関連
- 採用につながる場合もある
 - 本人の特徴も理解できるので、企業側にもメリットがある

企業インターンシップによる相乗効果

大学

学生の新たな一面を見ることができる

学生に適した職業の情報を得られる

学生

自己理解

就労への自信

就労イメージが育つ

生活リズムが整う

企業

障害学生を雇用するイメージが持てる

学生を知った上で雇用につなげることができる

共通理解のもとに、就労相談を進めることができる

まとめ

- ◆学生の感想では企業インターンへの言及が多く、本人にとって大きな体験となっていたことが推察できる
- ◆本人の利益だけでなく、企業側にも利益がある
 - ◆発達障がい・精神障がいの方の採用について、本気で意義あるものとして捉えるなら・・・
- ◆就労支援機関の有用性の再確認
 - ◆一方で、企業と大学がこれまで以上に連携することで、新たなインターンの形態も構築できるのでは？

【課題】 関係機関の機能的連携に向けて

★大学側の課題

- ・ どこまでの層を支援対象とするのか？
- ・ スタッフのマンパワーの問題
⇒本学での障害学生支援は修学支援がメインとなり、キャリア支援では健常学生をターゲットにしている
- ・ 本人の障害受容のプロセスや障害特性との向き合い方に寄り添う専門性
- ・ 高校や中学からのキャリア教育の必要性

【課題】 関係機関の機能的連携に向けて

★企業側から求められること

- ・ 初めから正社員雇用では不安があるため非正規雇用からのスタート
- ・ 就労支援機関と繋がっていること

★企業側・社会（行政）に求めること

- ・ 新卒での正規雇用に繋がりたい
- ⇒就職先の開拓、ジョブマッチングの必要性
就職後の定着支援の問題
- ・ インターンシップの多様化（理系の専門、大学院生対象など）
- ・ 合同説明会など採用イベント開催の多様化・促進
- ・ 勤務形態の多様化・柔軟性
- ・ 採用における一般枠と障害者枠との格差の問題
- ・ 企業に障害者（一般枠での就労困難者）専用コーディネーター配置